

EUJ 公開講演会 国際基督教大学

EU の外交政策—ステファン・ケウケレール教授

国際基督教大学社会科学科 2年 大西 彩乃

2006年10月12日木曜日、ステファン・ケウケレール・ルーバン・カトリック大学（KUL）教授が国際基督教大学を訪れ、公開講演を行った。当日行われた2回の講演はEUの機構や政策決定のしくみを基に、EUの政策決定の現状や展望に対する関心を惹起するものであった。

「EUの外交政策:一般的概要」と題された1回目の講演では、欧州防衛共同体の失敗、共通外交安全保障政策や欧州安全保障防衛政策といった欧州統合の過程について紹介された。ケウケレール教授は、単なる統合ではなく、お互いが協力し合うことが重要であると指摘した。また、EUの三つの柱を示したうえで、EUの外交政策を考える際の第一、第三の柱の重要性についても言及し、第二の柱のみで外交政策を考えることは十分ではないこと、「共通」外交安全保障政策の「共通」が、一般的な意味での「共通」でないとの指摘をなした。

さらに、各国は各々の世界観をもつゆえに、共通の利益を得ることは困難な場合もあり、制度的にも手続きにも課題があると強調したが、EUの外交政策は各国の外交政策の可能性の拡大、正統性の強化において有益であるとの指摘がなされた。「EUの外交政策:組織的側面」と題された2回目の講演では、EUの三つの主要機関とEUの政策決定について議論がなされた。欧州理事会、欧州委員会、欧州議会はEUの政策遂行のために、各々の機関のみでなく他の機関とも連携を図り取り組んでおり、また、政策決定においては理事会事務局やコア・グループ、欧州委員会の役割が大きいことが示された。さらに、加盟国の増加に伴う政策決定の困難さや、三つの機関の共通外交安全保障政策や欧州安全保障防衛政策への取り組みについても説明がなされた。